

「当たり前」がもつ力

新潟県立村上中等教育学校 3年 有本らな

「『ありがとう』今日は何回言えるかな」この標語は私が小学生の時に考えた標語です。「ありがとう」この言葉には不思議な力があると私は考えます。その力というのは、言われた方だけではなく、言った方も自然と笑顔にさせる、そんな力です。

世の中にはこの「ありがとう」のように、不思議な力を秘めた言葉がたくさんあると考えます。その例として挙げるのが「行ってきます」と言えば「行ってらっしゃい」と「ただいま」と言えば「おかえり」と返ってくる私たちの日常生活において何気なく使っている言葉です。誰もが一度は耳にするこの言葉。いったいどんな力が秘められているのでしょうか。

今年4月に韓国で起きた旅客船セウォル号沈没事故。死者は200名を超え、現在も行方不明者がいるというとても悲惨な事故です。ニュースで毎日のように増えていく死者の人数。番組内で流れていた事故直後の映像は今も頭から離れません。一人でも多くの命が助かりますようにと、私はテレビからこのニュースが放映される度に願っていました。そんな時、私は次のようなニュースをテレビで見ました。それは、セウォル号沈没事故の第一通報者の少年についてのニュースです。その少年は船が傾き始めてから約3分後に119番通報。少年は震えながらも必死に救助を訴えたそうです。そんな少年を父は「家族のもとへ電話せず、先に通報して天国へ旅立った息子が誇らしい。でも、本当に会いたい」と涙を流して話をしていました。そして、明るい笑顔で「行ってきます」と出かけて行った息子の姿が最後だったと続けていました。

この時、私は思ったのです。父は息子からの「ただいま」をどれだけ心待ちにしていたのだろうか。父は「ただいま」そのたった一言を懸命に待っていたはずですが、しかし、その願いは叶いませんでした。私たちが普段何気なく聞いている当たり前の言葉が聞けなくなる。ただそれだけで人の日常は一瞬にして暗く冷たい海の底のように変わってしまうのです。

みなさんも考えてみてください。「行ってきます」と言った大切な人から「ただいま」の言葉が聞けなくなる辛さを。「行ってらっしゃい」と言ってくれた大切な人から「おかえり」の言葉が聞けなくなる辛さを。

確かに、日常生活の中で当たり前に戻ってくる言葉が数多くあります。「ありがとう」と言うと「どういたしまして」と。「バイバイ」と言うと「バイバイ」と。たかが返事が返ってくるだけかもしれませんが、現代社会において、このたった一言のやりとりができない人もおり、人間関係の希薄化が近年、問題視されています。だからこそ相手を思いやる「愛」が込められている、このような何気ない言葉のキャッチボールが大切になってくるのです。

学校で疲れて帰宅し、玄関を開けて「ただいま」と言うと「おかえり」という母の声が聞こえてきます。すると、私はいつの間にか温かい気持ちになるのです。もし、「ただいま」と言って「おかえり」という言葉が返ってこなければ不安で悲しい気持ちになってしまいます。だからこそ、「行ってらっしゃい」にはどんなに辛いことでも自分自身を頑張

れる気持ちにしてくれる、「おかえり」には今日も一日頑張りましたと疲れた私を癒してくれる、そんな力が秘められていると考えます。

自分の将来や夢のために私たちは日々努力しています。しかし、実はこれらの何気ない当たり前の言葉こそが私たちを明るい未来へと導いてくれる「合言葉」いや「愛」があふれた「愛言葉」なのです。

さあ、みなさんもこの「愛言葉」を言ってからその玄関の扉を開いてみませんか。